

事例6 中学校のOJT実践事例

時間割「教科担任タテ持ち制」で、指導力向上の体制をつくる

【教務主任として】

本校では4年前から学力向上指導員の助言を受けながら、学力向上を目指した取組を続けている。その中で、若手教員を育てていこうと試行錯誤を重ね、「教科担任タテ持ち制」にたどり着いた。これは以前、視察に行った福井県の取組を参考にしたものである。同じ教科の教員同士が学び合うことで指導の統一を図り、指導力向上、さらには生徒の学力向上につなげていくことが目的である。

〈取組の内容〉

○「教科担任タテ持ち制」の実施

時間割を編成する際に、一人の教員が3学年をまたいで教科を担当する「教科担任タテ持ち制」を取り入れた。これにより、3年間の見通しをもった指導が期待できるとともに、同じ教科の教員同士が、授業内容や進度について情報交換をする必要性が生まれ、若手教員の授業の質の向上につながると考えた。

○週に一度の「教科部会」の設定

時間割の中に、週1時間「教科部会」を設定することで、授業について話し合う場を確保した。教科部会では、進度の確認だけでなく、指導法やワークシート等の教材の共有、発問の工夫などについて話し合い、その内容を毎回記録に残した。若手教員が先輩教員から指導技術を聞ける貴重な学びの場にもなった。

【教科部会の記録用紙】

○月○日○曜日（教科名）部会の記録 No. _____

議題 (課題)	話し合いの内容 (検証)	結果 (改善)

【若手教員の声】

3学年分の授業準備は正直大変ですが、教科部会のおかげで教材を共有したり、評価規準を合わせたりすることができ、学ぶことがたくさんありました。

また、同じ単元の授業をお互いに参観し合うことができ、授業力を高めることができました。

【中堅教員の声】

教科部会で若手教員の悩みを共有することで、アドバイスすることができました。また、若手教員の新しいアイデアを取り入れることもありました。授業参観を行い、意見交換することは、私たち同じ教科の教員にとってもよい刺激となり、授業改善に生かしました。

これが成功の鍵！

⑦校務分掌などの校内組織を活用する

年度初めに時間割を工夫することで、同じ教科の教員同士が必然的に関われるようにしました。

④伝える工夫をする

教科部会の記録は、後で確認ができるのでとても有効でした。また、職員室の掲示板などに授業公開等の予定を書いて、教科の取組を全体に周知する工夫もしました。



授業公開の様子



教科部会の様子

〈取組の成果〉

- ・同僚と関わる場面が増えたことで、互いのよさを吸収し、授業力が向上して自分の指導に自信がもてるようになった。他教科の授業を参観することもあり、自分の指導に生かすことができた。
- ・中堅教員が周囲との関わりの中で、ミドルリーダーとしてよい影響を与える場面が増え、協働する原動力になった。
- ・教科指導の統一が図られることで、生徒の学力向上や保護者の安心感につながった。